地域･在宅看護論

構築の考え方とねらい

「地域・在宅看護論」では、人間の概念を学ぶ基礎分野や、看護の概念や技術を学ぶ基礎看護学とともに、人々が QOL を保ちながら生涯を地域で暮らしていくための看護の役割を学ぶ。小児看護学、成人・老年看護学、母性看護学、精神看護学の対象理解における生活の視点につながる科目群である。

日本の現代社会において、地域医療構想の実現や地域包括ケアシステムの推進などの制度改革が進められている。地域の人々が QOL を保ちながら暮らすためには、あらゆる年代の健康に関する多様性・複雑性のある対象のニーズに合わせ、多機関・多職種が連携して適切な保健・医療・福祉の提供が重要である。連携における対象及び家族の、意思決定と想いを尊重した看護の役割を、講義および実習において学ぶ。

基礎、専門基礎分野で学ぶ人間、環境、健康、看護の概念や基礎看護技術をふまえて、地域に暮らし生きる対象と家族に対する看護実践能力を育む。構成は下記の 6 つの科目とする。

①地域在宅看護論概論
②地域在宅看護方法論Ⅰ
③地域在宅看護方法論
④地域の暮らしを知る実習
⑤地域の暮らしを支える看護実習Ⅰ
⑥地域の暮らしを支える看護実習Ⅱ

地域や在宅のあらゆる場における看護実践は、その場その時その状況への臨床判断能力を用いての実践が求められるため、省察と実践を繰り返すことで、人が生き、暮らすための安全な環境と対象を支えるための看護を学ぶ。